

エリトリア国

【国名】

- ラテン語の「紅海」に由来しています。

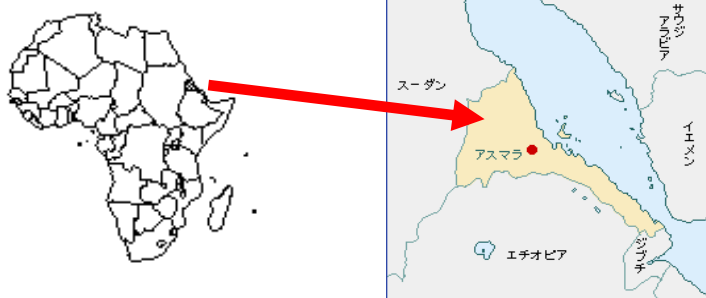
【国旗】

- 緑が農業，青が海，金が鉱物資源，赤が国土防衛のために流された血を表します。左辺に描かれた30枚のオリーブの葉は，1961年～1991年のエチオピアからの独立戦争の30年間を表します。



【国土】

- エリトリアは，東アフリカの紅海沿岸国です。海岸線の長さは1,300 kmに及び，面積は日本の約3分の1（約11.76万km²）です。首都はアスマラ，人口は約550万人です。



【古代史】

- 1世紀から8世紀にかけて、エリトリアは、紅海周辺において象牙などの交易で栄えたアクスム王国が支配していました。
- 民族的にはアラビア半島から渡来したセム族がクシ系土着民と混血を重ね、宗教的には土着信仰から原始キリスト教であるコプト教を国教とするに至りました。
- 7世紀にアラビア半島のイスラム勢力が紅海の覇権を握ってから衰退しました。その後、オスマン帝国が1869年まで沿海部を支配しました。

【世界遺産アスマラ】

- 首都アスマラは、標高 2,300m に位置しています。7 世紀以降、4 つの村からなる居住地でした。
- 1890 年～1941 年のイタリア植民地時代に建築された、アール・デコ様式（単純・直線的なデザインが特徴）の建造物が約 4,300 軒あります。
- 2017 年 7 月、アスマラは、「近代主義的アフリカ都市」としてユネスコの世界遺産に登録されました。



カトリック大聖堂



聖マリア・コプト教会



【国章のラクダ】

- エチオピアからの独立戦争において武器や食料の輸送手段として、ラクダが活躍しました。ラクダはエリトリア独立のシンボルとなり、国章となりました。
- ラクダの生息数は数10万頭にものぼり、アラビア半島に輸出され、エリトリアの主要な外貨獲得源となり、独立後もエリトリア経済を支えています。



【スポーツ】

- 自転車ロードレースは、イタリアの植民地時代に導入されて以来、エリトリアでは国技と言えるほど盛んなスポーツです。毎年「ツール・ド・エリトリア」を開催しており、世界レベルでもダニエル・テクレハイマノット等のプロ選手を輩出しています。
- マラソンでもギルメイ・ゲブレスラシエが、2008年北京五輪で金メダルを獲得する等強豪国の一つです。日本では、公益財団法人である世界こども財団が、陸上競技専攻のエリトリア留学生を受け入れ、日々トレーニングを行っています。



(写真提供：駐日エリトリア大使館)

【エリトリア料理】

- エリトリアでは「テフ」と呼ばれる、粟科の穀物が広く栽培されています。テフの粉を発酵させて薄く焼いた直径50cmほどの「インジェラ」がエリトリアの主食です。
- インジェラに、鶏肉や羊肉や香料とともに煮込んだ「ジギニ」と呼ばれるシチューを真ん中に注ぎ、数人で一緒に食べます。
- インジェラは鉄分、ビタミンB、カルシウム等が多量に含まれ栄養価が高い食品です。



【コーヒー】

- エリトリアでは、コーヒー・セレモニーという儀式が盛んに行われています。日常的に各家庭で行われている他、式典などの際にもコーヒー・セレモニーは欠かせません。コーヒーを客人の前で煎り、お香を炊き、煎ったコーヒーをつぶし、時間をかけてコーヒーを煮出し、3回に分けて客人に飲んでもらう等、きちんとした順序・決まりがあり、1杯のコーヒーを数十分から数時間かけて楽しみます。
- また、イタリア植民地時代の影響から、アスマラの街中にはカフェが点在しており、特に、マキアートが人々に嗜まれています。



【エリトリア人の名前】

- エリトリアには苗字の概念がありません。最初の名前が本人に名付けられた名前であり、2番目は父親の名前、3番目は祖父の名前です。相手に呼びかけるときは、本人に付けられた最初の名前を使います。
- 結婚しても名前は変わりません。